

## 昭和 48 年度全国大会経過報告

### 土木学会北海道支部

#### 1. はじめに

本年度は、年次学術講演会の実施要領が、申込方法、投稿規定、原稿用紙などにわたり、大幅に変更された年である。とくに、講演 1 件につき講演申込料 1000 円の払込みを願うこと、講演概要原稿のページ数は 2 ページ(無料)、超過する場合も 3 ページまでとし、超過料として 2000 円の実費をいただくこととしたこと等等である。申込まれた論文数は 1063 題、提出された原稿は 1029 題であり、いずれも昨年の九州大会をわずかながら上回った。したがって、会場も昨年と同様 22 教室および若干の控室を使用することとなった。北海道大学工学部(14 学科)の建物は、半世紀前に建てられた尖塔のある白亜

の旧校舎を順次とりこわし、約 10 年の歳月を費やして 48 年 2 月に竣工したばかりの新校舎で、7 万 m<sup>2</sup> のマンモス校舎となったので、全部の学術講演会場・研究討論会場・映画会場を一堂に集められるのははなはだ都合がよく、大学側の好意あるご協力も得られたので、会場は北海道大学工学部と早くより決められていた。10 月 1 日、2 日、3 日、幸いにも、2000 名をこえる参加者の来会を得て、盛会裡に全国大会を開催することができた。ただ、特別講演会場は当初学内のクラーク会館を予定していたが、都合により急に学外に変更し、種々参加者にご迷惑をかけたことと恐縮にたえなかったが、満席の盛況であった。

本年度の全国大会は、大会運営に関する質的向上と経費節約を目標にして、大会運営の手引き(昭和 47 年 9

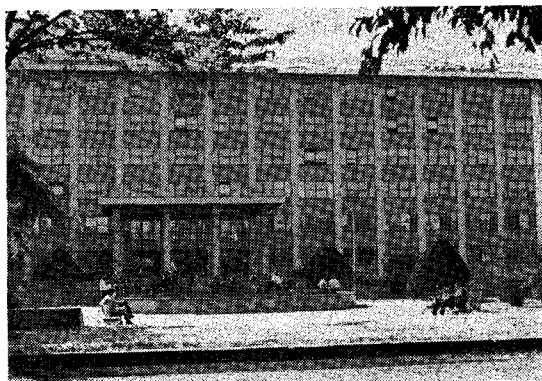


写真-1 年次学術講演会が行われた北大工学部



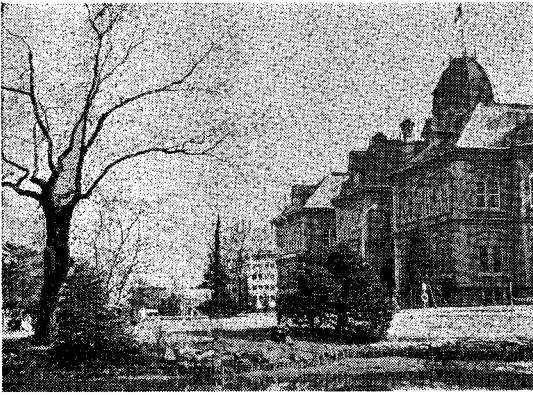
写真-3 講演概要集を買い求める大会参加者



写真-2 総合受付で資料配布を受ける大会参加者



写真-4 特別講演会場(自治会館)における講演者と来聴者



(昭和44年3月・重要文化財指定)  
写真-5 特別講演会が行われた自治会館近辺から眺められる北海道赤レンガ庁舎と前庭

月・土木学会)に忠実にそって実行された。会員各位には遠路のご参会にもかかわらず十分ご協力が得られたので、おおむね初期の目的を達成することができたものとする。

## 2. 特別講演会

大会第1日目の午前中、市瀬勲支部長のあいさつのち、下記の特別講演が行われた(別掲)。

- 9.40~10.30 建設産業の海外進出  
土木学会会長 飯田房太郎
- 10.30~11.10 北海道開発の現状と今後の方向  
北海道知事 堂垣内尚弘
- 11.10~12.00 生命の凍結  
北海道大学低温科学研究所長 朝比奈英三

特別講演会は北海道大学のクラーク会館で開催の予定であったが、都合により前々日、自治会館に会場を変更のうえ開催された。会場変更を事前に会員各位に通知できなかったため、30分開会を遅らせて始めたが、大学正門前に配置されたバスの利用その他の案内により続々来講され、やがて500名をこえ席のない参加者も多く、後列に立って熱心に聴講されていた方も多かった。

講演内容は本号に掲載されているとおりバラエティに富み、講師の方々の高い識見と、熱のこもった講演、また静かに語られる神秘なもの科学的解明のもつ魅力に参加者一同深く傾聴し、盛会であった。

## 3. 学術講演会

年次学術講演会への申込みは、昨年度最近にない急激な増加を示し1026題となった研究発表編数は、本年度1029編となり、使用教室は昨年度と同数を用意した。しかし、幸いに工学部のみに集中させることができ、各部門ごとに色分けして会場を明示するなどのくふうがみ



写真-6 学術講演会が行われた北大工学部の玄関ホールにけれられた“歓迎の華”と会場案内板

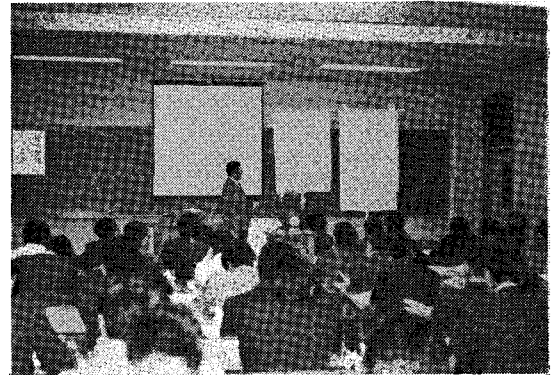


写真-7 熱心に聞き入る学術講演会参加者

り、混雑をさげられた。ポケットカードを用意したことも最近になかった試みだった。

各部門の発表数は表-1に示すとおりで、参考までに昨年度の部門別発表数と比較してみた。とくに第IV部門が増加しており、最多部門は第I部門から第II部門へ移った。各会場のおよその聴講者数は表-2に示すとおりである。また、今回は司会者、総括報告者名を含めて教室、講演時間一覧表を学会誌7月号に登載できたこと、

表-1 研究発表数

部 門	発表数(件)		増加数
	本年度	昨年度	
第I部門 (応用力学, 構造力学, 構造工学, 橋梁一般, 鋼橋など)	255	284	-29
第II部門 (水理学, 水文学, 河川工学, 海岸工学, 発電水力, 衛生工学など)	271	270	1
第III部門 (土質力学, 基礎工学, 岩盤力学など)	186	187	-1
第IV部門 (道路工学, 鉄道工学, 交通計画, 都市計画および地域計画, 測量など)	161	140	21
第V部門 (土木材料, 土木施工法, コンクリートおよび鉄筋コンクリート工学など)	156	145	11
計	1029	1026	3

表-2 学術講演会聴講者数

区分	会場(北大工学部)	10月1日(月)		10月2日(火)		10月3日(水)	
		午後	午前	午後	午前	午後	午前
第I部門	講義室	108	65	60	70	55	45
		C 14	30	58	56	36	—
		C 17	50	50	45	45	30
		151	30	57	45	35	30
		C 19	74	90	66	45	19
		B 32	73	85	92	76	45
第II部門	講義室	C 15	100	95	115	139	50
		C 16	100	50	100	70	40
		B 11	70	35	100	80	26
		101	76	118	86	77	61
		102	33	55	66	61	32
		電子第1	35	100	100	85	85
第III部門	講義室	電子第2	45	56	58	65	—
		電子第3	75	60	65	37	35
		R 31	48	51	35	33	36
		C 11	50	35	61	36	45
第IV部門	講義室	B 12	40	70	70	50	30
		C 12	42	33	46	23	31
		B 31	140	100	70	70	60
第V部門	講義室	106	50	80	60	60	45
		107	50	35	40	40	30
		計	1276	1373	1446	1218	775

加えて当日別刷の型で配布できたので、会員が聴講予定をたてるうえに、参考になったことと思う。なお、当日日本人の都合により一部が変更されたが、次の方々にご尽力いただいたことを記し謝意を表したい。

司会者および総括報告者一覧

(1) 第I部門

司会者:

後藤 茂夫	井藤 昭夫	夏目正太郎	岡村 宏一
小林 昭一	林 有一郎	佐武 武雄	川本 眺万
吉田 裕	丹羽 義次	菊池 洋一	福本 晴士
西野 文雄	高橋 竜夫	波多野昭吾	米沢 博
前田 幸雄	外崎 忍	堀井健一郎	長 尚
大久保禎二	赤尾 親助	石井 亮二	青木 弘
西村 昭	山本 稔	新山 惇	波田 凱夫
秋山 成興	芳村 仁	樗木 武	大村 裕
能町 純雄	小松 定夫	深沢 泰晴	渡辺 昇
松本 嘉司	長谷川修一	薄木 征三	白石 成人
岡内 功	伊藤 学	小堀 為雄	西脇 威夫
平井 一男	伯野 元彦	島田 静雄	栗林 栄一
土岐 憲三	片山 恒雄	大久保忠良	山田 善一
田村重四郎	岩崎 敏男		

(2) 第II部門

司会者:

岩垣 雄一	室田 明	堀川 清司	岩崎 敏夫
佐伯 浩	角屋 睦	石原 安雄	山岡 勲
高橋 裕	椿 東一郎	西畑 勇夫	足立 昭平
林 泰造	杉尾捨三郎	芦田 和男	佐藤 敦久
南部 祥一	柏谷 衛	寺島 重雄	松本順一郎
神山 桂一	石橋 多聞	末石富太郎	岩佐 義朗

嶋 裕之

総括報告者:

玉井 信行	日野 幹雄	佐伯 浩	服部昌太郎
合田 良実	三浦 晃	近藤 徹郎	土屋 義人
野田 英明	木下 武雄	藤田 陸博	金丸 昭治
長尾 正志	山口 甲	高木 不折	山口 高志
宮村 忠	高樺 琢馬	須賀 尧三	板倉 忠興
村岡 浩爾	篁 源亮	村本 嘉雄	是枝 忍
荻原 能男	大同 淳之	高瀬 信忠	木村喜代治
土屋 昭彦	河村 三郎	今本 博健	粟谷 陽一
小林 三樹	松尾 友矩	神山 桂一	高松武一郎
住友 恒	井上 力太	筒井 天尊	平岡 正勝
川島 普	石黒 政儀	和田 明	柏村 正和
上田年比古	安田 禎輔	崎山 正常	

(3) 第III部門

司会者:

松尾新一郎	西田 義親	北郷 繁	網干 寿夫
佐武 正雄	三木五三郎	畠山 直隆	小田 英一
赤井 浩一	福岡 正巳	田村 浩一	藤田 圭一
稲田 倍穂	内田 一郎	小野寺 透	島 昭治郎
清水 英治	市原 松平	山内 豊聡	

総括報告者:

河野伊一郎	八木 則男	軽部 大蔵	吉国 洋
松岡 元	山田 匡寛	神山 光男	松尾 稔
浅田 秋江	西 勝	小川 正二	石原 研而
箭内 寛治	佐々木 伸	吉田 信夫	喜田 大三
前 郁夫	川本 眺万	斎藤 二郎	高志 勤
松沢 宏			

(4) 第IV部門

司会者:

越 正毅	西村 昂	本多 義明	小野和日児
明神 証	黒川 茂	松浦 義満	清水浩志郎
藤田 昌久	森地 茂	飯田 恭敬	奥谷 巖
樋口 忠彦	松井 寛	石井忠二郎	花岡 利幸
広瀬 盛行	春名 攻	木俣 昇	岩佐 正章
太田 勝敏	村井 俊治	佐藤 吉彦	吉田 信夫
松井啓之輔	星 仰	中村 英夫	塩田 衍
金丸 次男			

(5) 第V部門

司会者:

横道 英雄	岡田 清	西沢 紀昭	村田 二郎
角田与史雄	池田 尚治	小柳 洽	神山 一
藤井 学	藤田 嘉夫	児玉 武三	外崎 忍
長滝 重義	徳光 善治	堺 毅	河野 清
吉田 弥智	小林 一輔	柳場 重正	徳田 弘
新田 登	三瀬 貞	間山 正一	尾崎 諷
渡辺 明	北田 勇輔	西堀 忠信	般越 稔
小林 正凡	前川 静男		

4. 研究討論会

本年度も、昨年度と同様な形式および規模で研究討論会が開催された。

研究討論会の各テーマ および座長、話題提供者は表-3のとおりで、各専門分野の最近の話題を関係の委員

表-3 研究討論会テーマ、座長および話題提供者

月/日 (会場)	テ マ	座 長	話 題 提 供 者	参 加 者
10/1 (B21)	第5回世界地震工学会議のトピックス (第I部門)	林 聡	後藤 尚男, 田村重四郎, 桜井 彰雄, 栗林 栄一	220
10/2 (B32)	寒冷地における溶接構造用鋼材 (第I部門)	渡辺 昇	阿部 英彦, 堀川 浩甫, 進藤 弓弦, 大島 久	120
10/2 (B31)	人間と川 (第II部門)	室田 明	岩佐 義朗, 高橋 裕	220
10/1 (B32)	軟弱地盤における土工の調査, 設計, 施工について—主に泥炭地を中心として— (第III部門)	宮川 勇	大平 至徳, 渡辺 進, 中沢 裕, 河野 文弘	100
10/1 (B12)	膨張性をもった地盤中のトンネル施工について (第IV部門)	足立 貞彦	星野 定, 齋藤 教蔵, 小林 一夫, 石山 嘉雄	83
10/2 (B21)	土地利用と開発計画 (第IV部門)	小川 博三	八十島義之助, 堀 武男, 市瀬 勲	160
10/1 (B31)	コンクリート構造におけるプレキャスト部材の活用 (第V部門)	横道 英雄	岡田 清, 宮坂 慶男 (野口功の代理), 松本 嘉司, 三浦 一郎, 伊藤 義則	170
計 (延べ)				1073

会に世話していただき7題目を選択した。プログラムに掲載の主旨は各座長にお願いして約100語に制限して述べていただいたもので、よくその討論会の意図がうかがえる。



写真-8 研究討論会で発表する座長および話題提供者

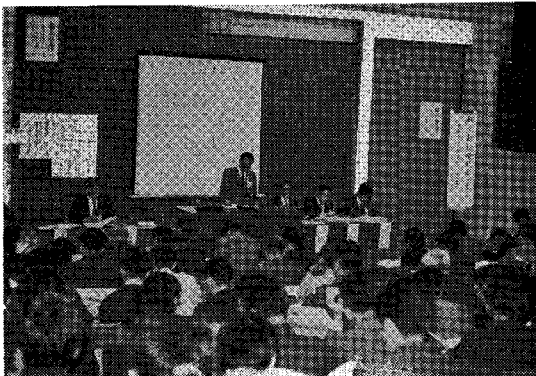


写真-9 研究討論会で熱心に討議をする参加者

研究討論会の参加者は、延べ1073名にも達し、盛会であった。各会場とも、熱心な話題提供と一般会員も自由に参加しての討論が行われた。180名定員の教室で補助椅子を入れてもなお立っている参加者が多く、文字どおり息づまる迫力のある会場もあり、7題目ともそれぞれ期待にたがわぬ成果をあげた。

なお、研究討論会の詳細な内容については土木学会誌臨時増刊号 Annual '74 (昭和49年4月15日発行)に掲載される予定である。

## 5. 映画会

本年度も、3日間にわたり計24本を上映した。研究発表の合間にテーマを選んでみる人も、あき時間の利用者も、ずっと記録映画を堪能している参加者もあり、あわせて最大200人、延べ700人の参加者を数えた。会場のB21は映写装置のととのった375人定員の大きな講義室なので、必ずしも盛況という感じはしなかったが、全国大会で土木関係記録映画を上映する効用は決して低くないようである。ここに、上映フィルムならびに提供者を記し謝意を表する。

- ① 北海道への招待 (北海道)
- ② 土石流 (北陸地建)
- ③ 蛇紋岩トンネル掘削の記録 (鉄道建設公団)
- ④ 樹海1 (東大演習林)
- ⑤ 本州・四国連絡橋 (本四公団)
- ⑥ 北方領土 (HBC映画社)
- ⑦ 新全断面掘削工法 (前田建設)
- ⑧ 石狩河口橋 (北海道開発局)
- ⑨ 地すべり (近畿地建)
- ⑩ 札幌の水道 (札幌市)
- ⑪ 苫小牧港の建設 (北海道開発局)
- ⑫ 流水 (北大低温研)
- ⑬ 樹海2 (東大演習林)
- ⑭ 豊平峡ダム (北海道開発局)
- ⑮ 地熱にいとむ (土木学会)
- ⑯ 砂丘に築く (中部電力)
- ⑰ 札幌の地下鉄 (札幌市)
- ⑱ いそげ下水道 (札幌市)
- ⑲ 青函トンネルにおける水平ボーリング (鉄道建設公団)
- ⑳ 振動の世界 (神鋼電機)
- ㉑ 神戸大橋 (土木学会)
- ㉒ 海底資源と開闢 (国土総合開発)
- ㉓ 世界の都市開発 (ヨーロッパ編, アメリカ編)
- ㉔ (鹿島建設)
- ㉕ 鶴と白鳥の流水の故郷 (HBC映画社)

## 6. 見学会

市内見学の日帰りコースおよび苫小牧工業港、豊平峡ダムを見学主体とした1泊2日コース (千歳回り、函館回り)を計画したところ、参加申込み者数が市内コース18名、千歳、函館両コース各12名と、それぞれ予定の30名に満たなかったため、不本意ながら中止した。

## 7. 懇親会

大会第1日目の10月1日午後6時から、北海道開拓



写真—10 盛況の懇親会会場とあいさつをする堂垣内知事

時代の古さを今日に残す“サッポロビール園”で行われた。ここは赤煉瓦のビヤホールとポプラの木立ちと緑の芝生に囲まれた牧歌的なビヤガーデンで、野趣たっぷり成吉思汗鍋と、自慢の道産料理とともに、隣のビール工場ですきたばかりのサッポロ生ビールを十分に満喫できるところである。



写真—11 ジンギス汗鍋を囲んで交歓のひとときをすごす懇親会参加者

参加者も当初の予想を大きく上回り、約400人の会員が参集した。まず、今大会実行委員長である市瀬勲北海道支部長の歓迎のあいさつから始まり、土木学会長飯田房太郎氏、次期開催地を代表して中国四国支部長（代理荒木謙一氏）のあいさつと続き、北海道知事堂垣内尚弘氏から大会の盛会を祝う言葉をいただき、さらに札幌市長ほか3氏からの祝電の披露があったのち、土木学会副会長横道英雄氏の音頭で乾杯のジョッキを高らかに上げ宴に移った。早速、成吉思汗鍋独得の肉を焼く音、香り、煙りが広い会場に立ち込める中を、会員相互の親睦を深める談笑が続けられた。ジョッキが次々とあけられ、飲

むほどに和気あいあいの交歓風景があちこちに見られ、時間のたつのも忘れて、この懇親会も最高潮になった。7時30分、まだ名残りつきない宴の最中であつたが、真井耕象名誉会員の音頭で土木学会の発展を祝し、声高らかに、万才三唱をして懇親会を終了した。

## 8. 謝 辞



市瀬支部長

このたび土木学会昭和48年度全国大会を当北海道支部担当のもとに札幌市において開催し、特別講演会、第28回年次学術講演会、研究討論会、映画会および懇親会を、すべて盛会のうちに終了することができました。これは、ひとえに会員諸氏をはじめ賛助者、地元関係各位の絶大なご尽力とご協力のたまものと深く感謝いたします。ここに、誌上を借りて厚くお礼申し上げます。

土木学会昭和48年度全国大会実行委員長

土木学会北海道支部長 市瀬 勲

### 昭和48年度全国大会実行委員会委員名一覧（順不同）

実行委員長	市瀬 勲		
副委員長	本間 四郎	倉橋 力雄	
事務局	林 正道**	水沢 和久	山根 達矣
	渡辺 健	江利川喜一	高橋 毅
	荒川 利輝	山本 清助	
総務部	林 正道**	河野 文弘*	伊藤 健二
	斎藤 教蔵	角田 和夫	高橋 毅
財務部	栗林 隆**	高木 陽一*	荒川 利輝
講演部	山岡 勲**	菅原 照雄*	北郷 繁
	能町 純雄	岸 力	渡辺 昇
	藤田 嘉夫	加来 照俊	丹保 憲仁
	芳村 仁	五十嵐日出男	土岐 祥介
	板倉 忠興	森吉 昭博	三田地利之
	小浜 実	江利川喜一	橋本 識秀
	見学部	水沢 和久**	伊藤 裕
監査	田中 一郎	佐藤 幸男	山野 耕二

注：\*\* 印 部長， \* 印 副部长。

### 昭和48年度全国大会賛助者（順不同）

北海道、札幌市、国鉄北海道総局、国鉄札幌工務局、北海道電力（株）、北海道建設業信用保証（株）、北海道建設業協同組合、空知建設業協会、小樽建設協会、函館建設協会、室蘭建設協会、旭川建設業協会、留萌建設協会、稚内建設協会、網走建設業協会、帯広建設業協会、釧路建設業協会、一般土木関係46社、舗装事業協会所属43社、石油連盟北海道支部、全石連アスファルト部会北海道支部、鋼橋製作関係19社、鉄鋼関係8社、セメント関係4社、コンクリート関係16社、北海道土木コンクリートブロック協会、消波ブロック関係8社、北海道埋立協会、北海道開発コンサルタント（株）、北海道測量事業協同組合、その他7社。